



工 藤 正 廣
(柊の会)

上十三まるとネットの考え方は

上十三地域の 医療連携と強化を図る

問 地域医療連携推進法人上十三まるとネットの考え方は。

答 上十三地域の主要 4 公立病院と 1 民間病院が手を取り合い、地域医療の確保と提供を図るため、医師、看護師等の人的交流や人材育成、共同購入や物流管理等を実施します。さらには、大学医局との関わりも従来の個々の病院単位ではなく、地域の共同体として医療の確保、提供に資する取組を進めていかななくてはならないと考えています。

問 推進にあたっての問題点は。

答 県の地域医療構想においても、人口減少を背景とした患者数の減少や、医療従事者の確保、養成等が課題とされており、将来の地域医療の継続と住民の暮らしに必要な医療の提供を考えていく上で、地域医療の体制は市町村等をはじめとした関係機関の協力等を踏まえた病院間のより強固な連携と機能分化が必要であり、推進に係る課題であると考えています。

問 病院経営黒字化への市長の考えは。

答 令和 7 年度予算に赤字予算を計上しており、このままの状況で推移すると令和 7 年度決算には資金不足比率 20% を超えることから、厳しい状況の中でも、収益を伸ばし、費用を抑え、赤字額をできる限り縮減していかなければならないと考えています。

市長就任後、病院事業管理者と速やかに面談し、さらなる経営の分析を進めるよう指示したところです。その分析結果を踏まえ、引き続き病院事業管理者と意思疎通を図り、病院職員と気持ちを一つにしながら、地域住民への医療提供の維持確保に取り組んでいきたいと考えています。



竹 島 直 樹
(柊の会)

大深内小中学校を不登校特例校に

現在の取組の充実を図る

問 大深内小中学校を不登校特例校にしては。

答 文部科学省の不登校対策「COCOLOプラン」に沿った対策を実施しているほか、教育相談員を派遣し、校内に教育相談室を設置することで学級復帰に向けた支援をしています。現時点では、これらの取組の充実を図る方針であり、不登校特例校の設置は考えていません。

問 市営陸上競技場をタータンにする考えは。

答 水はけがよく雨天でも競技可能等のメリットがある一方、整備費が高額なことや、土のトラックに比べ選手の体に負担がかかるなどデメリットもあることから、総合的に勘案し、現時点ではタータン舗装にする考えはありません。

問 身寄りのない高齢者の死後事務を支援する考えは。

答 病院の入院費用等の清算や、遺品・財産整理等の死後事務については、相続人または相続財産清算人でしか対応できず、市は支援できる体制にないことから、元気なうちから終活に備えるための「とわだエンディングノート」の活用を推奨し、周知に努めています。

問 市民が知らない間に風力発電所が建設されることはないか。

答 一定規模の事業の場合、環境影響評価図書の縦覧と説明会を開催することになっているほか、県議会に上程中の条例案では、500kW 以上の事業を対象に、環境影響評価手続の前後に合意形成を図るための手続が実施される見込みです。県条例施行後は、500kW 未満の相当小規模な事業でない限り、市民が知らない間に風力発電が建設されることはない認識しています。